

イソホーメーシヨウ ガーキュラー

No. 18

1974年8月

内 容

I 第7回大会関係記事	1
① 第7回総会および第11回運営委員会報告	1
② 昭和48年度決算	3
③ 昭和49年度予算案	4
④ 付則の変更	5
⑤ 第7回大会を終えて感じたこと	5
II 国際発生生物学会議への協力について	6
III 事務局からの連絡	7
① 第4回会長および運営委員の選挙について	7
② DGD原稿についてのおねがい	8
③ 近刊予告	8
会費納入についてのおねがい	表紙うち側
IV 会員の異動	9

日本発生生物学会

名古屋市千種区不老町 (〒464)

名古屋大学理学部生物教室内

会費納入のお願い

会費は前納になっておりますので、昭和49年度（通常会員会費：3,500円）までは必ずお納め下さい。尚、昭和50年度の会費は4,500円です。サーキュラー№13で御覧の通り、第8回の運営委員会において、会費未納1年で会誌、DGDの発送を停止することが決められております。この決定に従がい、昭和48年度分の会費の未納者は、DGDの発送を致しません。会費の納入は郵便振替を御利用下さい。

加入者名 日本発生生物学会

口座番号 名古屋42801

インスタント人工海水

アクアマリン

姉妹品 ◇ ポースアクアマリン(海水魚淡水魚同時飼育剤)アクアマリンM
(人口海水用添加液) アクマリンK (海藻育成液) 其の他

八洲薬品株式会社 水産事業部

大阪市西区京町堀1丁目145 TEL (44) 3036・3037・2191
3038・3039・1422

I 大会関係記事

① 第7回総会および第11回運営委員会報告

運営委員会は、6月19日午後愛知会館にて開かれた。そこでの審議事項のうち、総会にはかられたものは総会の項に一括して報告する。その他の主な内容は次の通りである。

① DGDの編集主幹および編集委員の改選。

現在の編集主幹と委員の任期は49年12月末で切れるので、まず次期の主幹として岡田節人氏にお願いすることが決められ、岡田氏も受諾された。次に3名連記により次の3名の編集委員が選出された。柳島直彦氏、金谷晴夫氏、団仁子氏。のこりの6名は、後刻編集主幹より指名される。

② 次期会長、運営委員の選挙は、今秋行なわれるが、その選挙管理委員として次の5名が推薦された。波磨忠雄氏（長）、大木健市氏、大井優一氏、小嶋学氏・石崎宏矩氏。尚選挙に関する付則第3条第2項の変更が総会で可決されたばあいは、波磨、大木、大井の3氏により選挙管理委員会が構成されることが諒解された。尚、経費節約のため、今回は名簿は配らず、今員の名前のリストをもって代えることが事務局より提案され、諒承された。

総会は6月21日午後、愛知勤労会館の小ホールで、江口吾朗氏を議長として進められた。主な報告・審議事項は次の通りである。

- i 48年度決算報告（別表参照）が小谷前会計幹事により行なわれた。前田会計監査委員から、帳簿を監査した結果、適正であることが報告された。
- ii 昭和52年11月7日～12日に日本で開催予定の第8回国際発生生物学会議について椋山会長より、日本発生生物学会が日本動物学会と共に後援団体となることが運営委員会でもはかられた旨報告があった。（国際会議の内容については別項参照）。
- iii DGDの岡田編集主幹より、現状の報告と、次期担当の所信が述べられた。
- iv 次回大会を仙台で5月中旬頃開く予定であることが樋渡運営委員から報告された。
- v 会長、運営委員の選挙について、選挙管理委員を5名から3名に減らすこと、そのため、付則第3条を変更することがはかられ、可決された（付則の変更については別項参照）。又、運営委員の選出に際し、現行の選挙施行細則では、投票は14名連記とし、記入された数が14名に過不足のある場合は無効とする（第4条）となっているが、不

足のときは有効とするべきではないかとの意見が以前よりあり、そのため第4条を削除する案が総会にはかられたが、14名の連記と定められている以上、1名のみ記入でも有効であるとするのは問題であるとの意見が出され、採決したところ、原案賛成が出席者の3分の2を充さず、可決されなかった。運営委員の選挙施行細則については、暫定の規約であることでもあり、運営委員会において、今後引続いて研究することとなった。

vi 49年度予算案（別項参照）が成立した。

vii DGDの印刷費値上げを含む諸経費の高騰により、学会の収支のバランスがとれなくなったため、昭和50年度の通常会費の会費1,000円値上げを含む下記のような値上げ案がはかられ、可決された。

通常会員会費：現行3,500円を4,500円（昭和50年より）

機関購入：国内、現行3,000円を6,000円（DGD Vol. 16より）

国外、現行6,500円を8,500円（DGD Vol. 16より）

この値上げに伴う付則の変更（別項参照）も可決された。

viii 本会には賛助会員の制度はあるが、会費が年額5,000円以上と高額のため現在まで利用されていない。賛助会員の会費を年額10,000円以上としてこの制度を活用したい旨提案され、了承された。この変更に伴う付則の変更（別項参照）も可決された。

ix 事務所の移転に伴う付則の変更（別項参照）が可決された。

（以上事務局記）

② 昭和48年度決算

昭和49年6月19日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,116,756	D.G.D印刷製本費	1,581,900
会費	1,543,574	Vol. 14, №1, 残金	
D.G.D売上	993,844	Vol. 14, №3, №4	
発牛生物学誌売上	13,755	Vol. 15, №1,	
岩波単行本売上	437,295	D.G.D編集送本費	600,412
実験形態学誌売上	7,600	事務局経費	667,665
D.G.D文部省助成金	270,000	印刷費サーキュラー	56,600
利息	40,179	名簿カード	5,000
第6回大会収入	340,000	大会講演要旨集	304,970
京大事務局より	136,000	払込料金	15,140
その他(名簿売上郵送料)	1,510	運営委員会経費	1,200
		銀行手数料	950
計	4,901,513	第6回大会援助金	150,000
		第7回大会援助金	50,000
		小計	3,433,837
		次年度繰越金	1,466,896
		計	4,901,513

次年度繰越金内訳(48. 12. 31)

大阪市大	}	銀行	1,189,183		
		郵便局	134,117		
		農協	25,758		
		現金	11,042	小計	1,360,100
名大	}	銀行	53,148	小計	53,148
		現金			
京大	}	銀行	51,865		
		郵便局	88		
		現金	1,340	小計	53,293
計			1,466,541		

③ 昭和49年度予算案

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	1,466,896	D G D 印刷製本費 ⁽¹⁾	3,700,000
基金残額繰り入れ	200,000	D G D 編集局経費	1,181,000
個人会費	1,900,000	事務局経費 ⁽²⁾	750,000
D G D 売りあげ	1,600,000	第7回大会講演要旨印刷費	350,000
文部省助成金	540,000	運営委員, 会長選挙費	40,000
岩波単行本売りあげ	440,000	運営委員会経費	120,000
D G D 広告代金	200,000	サーキュラー印刷費(年4回)	120,000
利息	40,000	第8回大会援助費	50,000
		振替払込料金	15,000
		特別印刷費 ⁽³⁾	30,000
		予備費	30,896
計	6,386,896	計	6,386,896

内 訳

(1) Vol. 15, № 2, 3, 4	2,500,000
Vol. 16, № 1, 2	1,200,000
(2) アルバイト費	360,000
発送事務用アルバイト費	20,000
通信費	200,000
幹事手当	60,000
交通費	40,000
事務費	70,000
(3) 会 則	
入会申込書	
入会勧誘	
外国応答用便箋, 封筒	

④ 付則の変更

1974年6月19日 第7回総会において改正

旧	新
<p>第1条 本会の事務所は大阪市立大学理学部生物学教室におく</p> <p>第2条 1. 通常会員は年額3,500円を年度始めに納入する。 2. 賛助会員の会費は年額5,000円以上とする。</p> <p>第3条 会長および運営委員の選出方法は次の通り定める。 2. 選挙の管理は運営委員会が委嘱した選挙管理委員（5名）が行なう。</p>	<p>本会の事務所は運営委員会の議を経て会長が委嘱する。</p> <p>1. 通常会員は年額4,500円を年度始めに納入する。 2. 賛助会員の会費は年額10,000円以上とする。</p> <p>2. 選挙の管理は運営委員会が委嘱した選挙管理委員（3名）が行なう。開票には会員は立ち会うことができる。</p>

会則・付則の脚注は次のようにする。

脚注：付則の第1条、第2条、第3条は、昭和49年6月22日、第7回総会に於て変更した。

⑤ 第7回大会を終えて感じたこと

第7回大会は6月20日より22日まで、名古屋の愛知勤労会館において開催された。一般講演59題、参加者は195名、盛会であった。梅雨の中での大会で天候が心配されたが、21日の夕刻豪雨になったほかはまずまずの天気、名古屋名物の猛暑もなかったのは幸であった。

今回の大会では、二つの試みがなされた。ひとつは、会場をひとつにしたことである。講演時間を、討論を含め20分とったこともあって、会期はフルに3日間となり、また、招待

講演は夕刻から開催としたので、シンポジウム、分科会などは割愛せざるを得なくなった。もうひとつは、九州大会以来夏休みの後半にあった会期を夏休みの前に移行したことである。これは、次回の大会を、必要ならば4～5月開催へ移行し得るという含みをもっていった。これらの功罪は問われなければならない。

大会の裏方を引き受けるに当って委員の念頭にあった事は、動・植物学会との重複は避けて動・植物学会ではできない事をやりたいという事であった。そして得られた結論が、会場ひとつ、講演20分であった。聴衆は、時計を気にしながら、会場をゴロゴロ出たり入ったりする必要は無くなったが、その結果専門の全く違った講演をたっぷり聞かされるというハメにもなった。冷房が適度に効いていて薄暗い会場は午睡にも好適であったようである。会場の数についてはいろいろな物理的制約もあることと思うが、講演時間20分は是非とも発生物学会の売りものとして、他学会のようにセカセカすることなく、今後も続けてほしいと願うものである。

動・植・化・微・医・農……と畑違いの研究者が一堂に会して情報を交換することは、この学会の特色ではあるが、年々「動」以外の参加者が減っていく傾向にあるのは淋しい限りである。とくに今大会はその症状が目立つように見えたのは主催者側のヒガミだけであろうか。次大会には「動」以外の会員の集団的なぐりこみを期待したい。

最後にカネの事をひとつ。今回も、例年の通り広告・展示などの収入が予算の過半を占めていて、大会参加費はとも角、学会会計から頂く援助費は収入のわずかのパーセントを充すのみであった。勿論、これは多くの他学会にも共通することであり、又、会費値上げをせざるを得ない学会財政の苦しさを考えると全く止むを得ない事ではあるのだが、大会が学会のメイン・イベントであり、又、物価狂乱の昨今、大会のあり方を含め、改めてもう一度考え直す必要はないだろうか。いつも他人事のように思っていた大会も、一度裏方を体験すると、色々と思う事が多いものである。

(第7回大会委員会の片隅から)

Ⅱ 第8回国際発生物学会議への協力について

会長 相山正雄

International Society of Developmental Biologistsが4年

毎に開催する国際会議の第8回が1977年に日本で開かれることになりました。昨年秋、同 Society の会長 Dr. Saxén やカーネギー研究所、発生学研究所長の Dr. J. D. Ebert を通じて日本に提案され、団 勝 磨、藤井 隆、岡田節人、竹内郁夫、加藤淑裕の諸氏が中心になって検討の結果、引き受けることになったものであります。同 Society は、日本の発生生物学者も相当多数会員になっており、現在岡田節人氏が評議員として運営に参画されている会であります。わが国でこのような国際会議が開かれますことは、日本発生生物学会にとって誠に有意義なことと思えます。主催は上記 Society でありますので、本学会としましてはこれを後援する団体として協力することについて、運営委員会の賛同を得ました。つきましては、これを会員諸氏に報告して、今後のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

会議の予定としては、1977年9月上旬を日程とし、シンポジウム、ディスカッション、自由発表などが企画されています。参加者は国内、国外300～500名、予算は3,000万円程度の規模になりそうです。後援団体としては日本動物学会もともにこれに当り、さらに関連学会の協力も得ていくということでもあります。

具体的なことはこれからでありますので、サーキュラーを通して、情報を会員諸氏にお知らせ致し度く、幸い、岡田節人氏が Society の評議員でありますので同氏から今後正確な情報をお書きいただけるはずであります。この方面の大規模な国際会議は日本では始めてのことであり大変な努力が要ると思えますが、是非とも成功してほしいと存じます。本学会が後援団体となりましたことをここに報告して会員諸氏のご協力をお願いする次第であります。

Ⅲ 事務局からの連絡

① 第4回会長および運営委員選挙について

第4回の会長および運営委員の改選が今秋11月中旬メ切で行なわれます。運営委員会と総会で御諒承を得ました通り、今回は、いつもの名簿はお配り致しませんが、投票用紙などが遅滞なく郵送されますように、もし、会員の所属、住所などの変更がありましたら、御面倒でも必ず事務局にお知らせ下さい。また、現行の表記のうち、事務局の手落ちで間違いや

誤記などがありましたら、御指摘下さい。現在、会員のかかりの方々私共に連絡なく住所を変更されており、サーキュラー、会誌などが返送されてくる事もございますので、この際とくに御願ひ致します。

② DGD原稿についてのお願い

DGDに寄稿されます原稿の取扱いについては、先のサーキュラーで、原稿の体裁について御注意頂く点、編集局としての原稿の取扱いなどについて述べておきました。その際にふれませんでした原稿と共に提出される写真につきまして、次のようにお願いしたいのです。

・原稿に付される写真は印刷仕上りの原寸大のものを送って頂く。

・いくつかの写真を一緒に印刷するよう希望される場合は、予め台紙にそのようにはりつけて頂く。

これは印刷仕上りの改善のためでありますので、宜しく御協力下さい。

(DGD編集局)

③ 近刊予告

日本発生物学会編「動物の器官形成」が現在準備中であり、近く刊行される予定です。岡田節人、林雄次郎両氏が編集の労をとられ20名内外の発生物学者が執筆者として加わっています。内容は大略次の通りです。

I 動物の器官形成に関する研究の展望

II 生殖細胞

III 胚発生における調節機構

IV 組織器官の形成と分化

V 再生

尚、出版に際しましては、今までと同様に本学会会員に限り、割引値でお世話致します。出版が決まりましたら、会員の皆様へは、内容のインフォメーションをお知らせする予定です。

Ⅳ 会 員 変 動

① 新 入 会 員 (1973. 12. 以降入会)

氏 名	住 所	テ ー マ な ど
石 谷 昭 子	(自(〒558)大阪市住吉区我孫子町 4-65 覚智荘内)	
伊 藤 義 昭	愛知医科大・進学・生物	①鶏胚網膜(色素上皮)細胞の培養下におけるメラニン合成 ②ニワトリ
太 田 忠 之	愛知教育大・生物	①精子成分の卵割誘導効果 ②ウニ・メダカ
景 山 節	京大・霊長研・生化学	①昆虫の糖代謝, 霊長類の機能とタンパク質 ②カイコ・ニホンザル
金 子 一 郎	理化学研・放射線生物	①細胞の胞子形成, 放射線生物 ②枯草菌
岸 本 健 雄	東大海洋研	①ヒトデの卵の成熟機構 ②ヒトデ
久保田 順 子	東大海洋研	①ヒトデの生殖機構 ②ヒトデ
小 浜 一 弘	東大・医・薬理	①筋肉形成・ニワトリ
佐々木 直 井	九州大学・理・生物	①一次誘導現象 ②イモリ
杉 田 雄 二	東北大・理・生物	①メラノゲネシスの諸問題 ②マウスメラノーマ
茶 谷 文 雄	名大・理・生物	①昆虫ホルモンの作用機作 ②カイコ
平 尾 幸 久	和歌山県立医大・生物	①淡水棲貧類の発生 ②イトミミズ・エラミミズ
広 部 知 久	東北大・理・生物	①細胞の増殖と分化 ②マウス
前 川 秀 彰	国立予防研究所・放射能	①絹細胞の遺伝子調節 ②カイコ
森 沢 正 昭	東大海洋研	①魚類の浸透圧調節 ②サカナ
渡 辺 憲 二	京都府立医科大	①細胞分化 ②アカハライモリ・ニワトリ
Joseph	Dept of Pathology	
Leighton	The Medical College Pennsylvania,	
	3300 Henry Avenue	

Philadelphia, Pennsylvania 19129
U.S.A.

② 所属・住所変更

氏名	旧	新
池田 章	広島大・医・解	川崎医科大・第2解剖
池田 高良	広島大・原爆放射能医学研究所	長崎大・医・第一病理
井坂 三郎	東京都立大・理・生	金沢大学附属能登臨海実験所
石母田 忠	東京教育大・理・動	名古屋大・理・生
及川 胤昭	Dept. of Anatomy and Reproductive Biology Univ. of Hawaii School of Medicine	山形大学・理・生物・発生学研究室
長内 健治	東北大・理・臨海実験所	岩手大・教育・生物
片山 広太郎	東京都杉並区堀ノ内3-13-5	(〒156) 東京都世田谷区船橋7.1.1.416
腰原 英利	東京教育大・理・動	(〒336) 浦和市根岸1343番3号2-9-3
近藤 昊	東京教育大・理・動	東京都立老人総合研究所・生物
塩川 光一郎	Dr. A.O. Pogo Cell Biology Laboratory	九州大・理・発生生物
鈴木 義昭	国立予防衛生研究所	Dept. Embryology, Carnegie Institution of Washington
団 勝磨	東京都立大	(〒150) 東京都渋谷区神宮前2丁目30-27
茅野 春雄	東京大・教養・生物	北海道大低温科学研究所
松橋 肇	東京大・農・家畜解剖	埼玉医科大・第2解剖
宮川 典之	熊本大・理・生	(〒862) 熊本市水源2丁目3の6
向井 秀夫	群馬大・教育・生物	(〒871) 前橋市川曲町22-7

氏 名	旧	新
目加田 英 輔	山形大・理・生物	阪大・微生物病研
柳 島 直 彦	大阪市立大・理・生物	名古屋大・理・生物
山 形 達 也	名古屋大・理・化	三菱化成生命科学研究所
米 田 満 樹	お茶の水女子大・理・生物	一橋大・生物

③ 退 会 会 員

青 木 康 子	(東京教育大・理・動)
石 井 一 宏	(京都大・ウィルス研・病理)
小 野 里 坦	(北大・水産)
勝 見 允 行	(国際基督教大学・生)
川 口 孝 義	(和歌山医科大・2生理)
佐々木 喜美子	(北大・理・植)
佐 藤 昭 彦	(日綿実業株式会社企画開発部)
佐 藤 磐 根	(阪大・教養・生)
佐 藤 七 郎	(東大・理・植)
佐 藤 進	(弘前大・理・生)
三 戸 信 人	(山形大・農・農芸化学)
嶋 田 裕	(千葉大・医・解)
高 越 哲 男	(福島県水産試験場)
谷 口 実	(細胞生理化学研究所)
多羅尾 四 郎	(東京女子大・理・生)
鳥 井 京 子	(日本医科大・生化)
中 川 義 和	(京都府立洛東高校)
中 村 義 輝	(室蘭市母恋南町)
新 島 迪 夫	(東京医科歯科大・医・解)
馬 場 三 吾	(京都大・理・植)
藤 卷 昇	(群馬大・医・解)
古 沢 潔 夫	(東京都中野区白鷺 2-13, 3-506)
牧 野 佐二郎	(北大・理・動物染色体研究施設)
増 田 芳 雄	(大阪市立大・理・生)
村 松 繁	(京大・理・動)
山 本 寅 男	(九州大・医・解)
山 本 良 一	(松原市天美西 1-3-34)